

文教警察委員会 県内所管事務調査の概要

【令和元年6月4日（火）】

◆調査箇所：県立日出総合高等学校

＜概要＞

同校は平成25年に旧日出暘谷高校と山香農業高校が発展的に統合。農業経営科、機械電子科、総合学科を併置した統合選択制の高校である。

地域に信頼され、中学生に選ばれる総合選択制での学校づくりを目指しており、2年、3年次の自由選択科目を多数揃えることで、農業、工業、商業系の就職や大学への進学など、生徒の希望に応じた幅広い進路の実現を図っている。



＜主な質疑等＞

- ・部活動の加入状況と文化系、体育系の加入割合について
- ・障がいのある生徒への合理的配慮について
- ・農業経営科、機械電子科での実習内容について

◆調査箇所：杵築日出警察署

＜概要＞

杵築日出警察署（管轄：杵築市、日出町）の組織、管内概況、業務重点の推進状況及び懸案事項（総合的な犯罪抑止対策、子供・女性・高齢者の安全確保と少年非行防止・保護対策、交通死亡事故の抑止、悪質・重要犯罪等の徹底検挙等）について調査を行った。

同署独自の取組として、警察官が無施錠放置自転車にチェーンロックをかける「自転車ロック作戦」を推進しており、被害が大きく減っていることなどが報告された。



＜主な質疑等＞

- ・中山間地のパトロールによる犯罪未然防止と住民の安心・安全について
- ・主要幹線道路におけるキラキラ作戦の実施状況と効果について
- ・高齢者の運転免許自主返納の状況と課題について

◆調査箇所：大分県警察本部地域課航空隊

＜概要＞

航空隊は昭和63年に発足。大分県警ヘリ「ぶんど」を運用し、行方不明者の捜索や災害警備、被害の調査、各種訓練、他県との協力による要人警護警備、日常の警ら活動などを行っている。

当日は、「ぶんど」の稼働率や運用状況、安全な飛行を確保するため、航空機点検整備の状況（飛行前点検、故障探求作業やエンジンの水洗い作業、ホイスト装置点検等）について説明を受けた。



＜主な質疑等＞

- ・大分県警ヘリ「ぶんど」の稼働日数、稼働率について
- ・法定点検について
- ・防災航空隊との相違について

◆調査箇所：別府教育事務所

<概要>

別府教育事務所（管轄：別府市、杵築市、国東市、姫島村、日出町）における事務所執行体制、管内公立小中学校の概況、教職員の状況、管内指導行政の概要と課題（市町村別の学力の状況、いじめの認知件数と解消率、不登校児童数と復帰率、体力・運動能力調査結果）について説明を受けた。

同所では、学校訪問に力を入れており、好事例の紹介や研修による教職員の資質向上の取組を行っているとの報告があった。



<主な質疑等>

- ・いじめ、不登校の傾向と解消・復帰に向けた具体的取組について
- ・教職員の中途退職の傾向について
- ・小学校英語教育による夏休みの減少と保護者の反応について

【令和元年6月13日（木）】

◆調査箇所：豊後高田警察署

<概要>

豊後高田警察署（管轄：豊後高田市）の組織、管内概況、業務重点の推進状況及び懸案事項（総合的な犯罪抑止対策、子供・女性・高齢者の安全確保と少年非行防止・保護対策、交通死亡事故の抑止、悪質・重要犯罪等の徹底検挙等）について調査を行った。

同署では、重点推進業務として働き方改革を進めており、40名と少ない人員の中で業務体制の確保や、連続休暇の取得に務めていることなどが報告された。



<主な質疑等>

- ・働き方改革の推進と小規模警察署の職員配置について
- ・外国人を含む観光客の増加による交通事故対策について
- ・特殊詐欺被害の状況について

◆調査箇所：中津教育事務所

<概要>

中津教育事務所（管轄：中津市、豊後高田市、宇佐市）における管内公立小中学校の概要、教職員の状況、中津教育事務所の指導の重点及び具体的な取組（学校マネジメントの深化、学力向上の取組、健康増進・体力向上の取組、いじめ・不登校の状況と解消に向けた取組）について説明を受けた。

また、教職員の勤怠管理の状況や中学校の部活動改革に対する取組についても報告があった。



<主な質疑等>

- ・各市における学力及び肥満傾向の差異とその理由について
- ・耶馬溪町金吉地区の山地崩壊に係る児童・生徒の心のケアについて
- ・小学校英語授業における時間数確保と教員の対応について

◆調査箇所：県立中津南高等学校

<概要>

同校は創立126年となる県北地域の進学校である。生徒一人一人の進路志望を達成するため、1年次は職業を知る、2年次は大学を知る、3年次は志望校を決めるとして、コース編成を工夫するなど、地域に根ざした国際的な視野の拡張とキャリア教育の充実を図っている。

また、挑戦意欲や主体的態度、思考力や協働する力を有するグローバルな人材育成のため、グローバル教育推進委員会を組織し、短期海外留学等を行っていることなどの報告があった。



<主な質疑等>

- ・部活動における文化系クラブ、スポーツ系クラブの生徒の割合について
- ・グローバル教育の具体的な取組と留学に係る費用負担について
- ・学校内における安全確保と事故防止対策について

◆調査箇所：日田教育事務所

<概要>

日田教育事務所（管轄：日田市、九重町、玖珠町）の組織、管内公立小中学校の概要、教職員の状況、管内市町の教育方針及び特徴、日田教育事務所の重点方針（学校マネジメントの深化、授業改善の徹底、安全・安心な教育環境の充実）と、目標達成のための具体的な取組について調査を行った。

また、今年4月に合併し、玖珠町内唯一の中学校となった、くす星翔中学校の概要についても説明を受けた。



<主な質疑等>

- ・スクールバスの利用状況とコミュニティバスとしての活用について
- ・合併中学校における生徒、教職員のコミュニケーションと課題について
- ・教職員の確保とメンタルヘルス対策について

【令和元年6月14日（金）】

◆調査箇所：日田警察署

<概要>

日田警察署（管轄：日田市）の組織、管内概況、運営重点推進状況（総合的な犯罪抑止対策、子供・女性・高齢者の安全確保と少年非行防止・保護者対策、死亡交通事故の抑止、悪質・重要犯罪等の徹底検挙、暴力団等組織犯罪対策、災害、テロ等の緊急事案対策と大規模警備諸対策）及び懸案事項について調査を行った。

また、日田市では近年豪雨による災害が相次いだことから、署独自の災害対策推進について報告があった。



<主な質疑等>

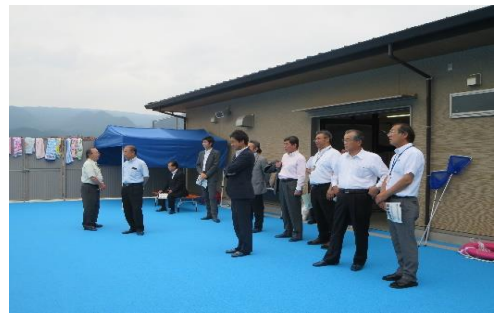
- ・パトロールカーによる中山間地の巡回による地域住民の安全・安心について
- ・特殊詐欺被害防止に係る電話機貸与の状況について
- ・働き方改革推進の具体的な取組について

◆調査箇所：玖珠町立くす星翔中学校

<概要>

同校は、今年4月に玖珠町内7つの中学校を統合して新設された町内唯一の中学校である。町が12台のスクールバスを配置することで、最も遠い生徒でも通学時間35分とするなど、**生徒**の部活動等にも配慮したバスの運行を行っている。

また、校舎は旧森高校の校舎を改修（一部新設）し、ユニバーサルデザイン化を行っている。ICTを活用した授業や地域とのつながりを大切にしたコミュニティスクールの取組も継続している。



<主な質疑等>

- ・統合による生徒のコミュニケーション、トラブル等の対策について
- ・コミュニティスクールの具体的な取組について
- ・旧森高校の校舎改修の内容と費用について

◆調査箇所：県立由布支援学校

<概要>

同校は平成25年に高等部が設置され、小学部22名、中学部8名、高等部26名の合計56名の児童生徒が通う県内特別支援学校では小規模校である。

医療的ケアが行える看護師、自校給食のための専門学校栄養職員を配置するなど、重複障がいのある児童生徒のケアを行う体制がある。また、就労に向けた作業学習を行い、就労アドバイザーが高等部卒業後のフォローを行っている。



<主な質疑等>

- ・地震等の大規模災害時における避難態勢と地域の支援体制について
- ・高等部の部活動種目及び活動状況と指導体制について
- ・特別支援学校教諭免許の取得状況と外部人材の活用について

◆調査箇所：県立大分商業高等学校

<概要>

同校は創立103年目を迎える、県内唯一の商業専門高校である。商業科、国際経済科、情報処理科を設置し、卒業後の進路を見据えた資格取得学習にも力を入れている。

昨年度の就職内定率は100%を達成し、県内就職者が9割を占め、そのうち7割が事務・営業・販売・サービス業で活躍している。懸案としては、校舎の老朽化が進んでいること、部活動における専門性を持った指導者不足などが報告された。



<主な質疑等>

- ・校舎の老朽化による建替要望と代替地の確保について
- ・生徒の就職、進学比率と就職後の離職率、フォロー体制について
- ・部活動外部コーチの確保と謝金について

◆調査箇所：県立大分支援学校

<概要>

同校は小学部101名、中学部56名、高等部103名、教職員140名の大規模校である。児童生徒の急激な増加により、平成20年度と比較して児童生徒数が約2.5倍となっているため、施設・設備の増設に課題がある。

当日は、陸上部が体育館で練習を行っており、成迫委員が早く走るための練習方法を部活生に指導するなど、委員と生徒がふれあう時間を持つことができた。



<主な質疑等>

- ・今後の児童生徒の増加傾向と施設の増設予定について
- ・就労移行支援と生活介護の内容について
- ・働き方改革への取組について

【令和元年6月19日（水）】

◆調査箇所：県立大分雄城台高等学校

<概要>

同校は生徒数713名。進学重視型単位制高校として充実した進学体制を確保するため、1年次40人6クラスから、3年次には30人8クラスとする少人数クラス編成や、難関校合格を目指すアドバンスクラスの編成も行っている。

また、校務分掌の重点目標を達成するため、教育環境企画部、文武両道推進部、人間力育成部を設置し、教職員それぞれに業務を担当させることで、特色ある学校づくりを目指していることなどが報告された。



<主な質疑等>

- ・通学路の複数ルート化について
- ・入試の状況及び入学者の出身地等について
- ・校舎、設備の老朽化と代替施設の要望状況について

◆調査箇所：県立大分鶴崎高等学校

<概要>

同校は生徒数637名。アンケート調査を使った授業改善の取組や、総合的な探究の時間「知来館プロジェクト」を実施するなど、生徒の進路目標の達成を目指した重点取組を実施している。

生きる力の育成の取組として、防災教育に力を入れており、予告なしの避難訓練を実施するなど、実効性を高めている。

また、子ども食堂で生徒が小学生・中学生に勉強を教える取組を行うなど、地域貢献活動についても報告があった。



<主な質疑等>

- ・防災教育、避難訓練の実施状況について
- ・部活動の強化を目指した取組について
- ・生徒、保護者の学校満足度を100%にするための取組について

◆調査箇所：大分東警察署

<概要>

大分東警察署（管轄：大分市鶴崎・横尾・大在・坂ノ市・佐賀関地区）の組織、管内概況、業務重点の推進状況及び懸案事項（総合的な犯罪抑止対策、子供・女性・高齢者の安全確保と少年の非行防止・保護対策の推進、交通死亡事故の抑止、大規模警備諸対策の推進等）について調査を行った。

特に、ラグビーワールドカップ2019開催については、渋滞対策、語学力対応能力向上訓練などに力を入れていることが報告された。



<主な質疑等>

- ・交番襲撃事件を受けた、警察官の安全対策と装備品の状況について
- ・交番、駐在所の統廃合とパトカーによる巡回について
- ・警察署の合併による、交通安全協会等の合併状況について

◆調査箇所：大分東警察署横尾交番

<概要>

横尾交番は、発展著しいパークプレイスや森町の商業地域とその周辺の住宅団地を管轄。夜間の110番通報が増加していたため、明治交番、松岡駐在所、川添駐在所の3つを統合して体制強化を行い、平成27年3月に運用を開始している。

昨年度から全国で交番襲撃事件が相次いでいるが、抜本的なセキュリティー対策を行った交番となっている。また、交番内での襲撃による警察官の人的被害防止を目的とした装備、安全対策を行っている。



<主な質疑等>

- ・近隣での不審者情報について
- ・防刃ベスト等の装備について
- ・横尾交番の勤務態勢と警察官の安全対策について

◆調査箇所：武道スポーツセンター

<概要>

同センターは、大規模大会も開催可能な武道をはじめとする屋内スポーツの拠点として、今年4月26日に竣工。

県民の誰もが気軽に利用できる施設として、トレーニングルームやキッズルームなどを備え、大規模災害時には武道場を広域搬送拠点臨時医療施設として活用することとしている。

5月の大型連休には県民を対象に無料開放イベントや内覧会を行い、5月末までの利用者は約3万9千人となったことが報告された。



<主な質疑等>

- ・各種スポーツイベントにおける施設の適正な管理、養生について
- ・トレーニングルームの利用者数や利用者の傾向について

【令和元年6月20日（木）】

◆調査箇所：大分教育事務所

<概要>

大分教育事務所（管轄：大分市、臼杵市、津久見市、由布市）における管内公立小中学校の概要、教職員の状況、管内市町ごとの学力、体力について、いじめ・不登校について、学校への指導について、調査を行った。

また、同所の取組として、年2回以上の学校訪問を実施し、学校組織や教職員の勤務に関する指導・助言を行っていること、初任者育成の取組、管内指導主事によるプロジェクト会議の開催状況などが報告された。



<主な質疑等>

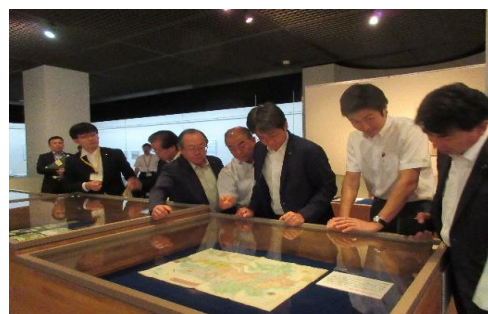
- ・休職、辞職した教職員の状況と傾向について
- ・小学校教科担任制と働き方改革について
- ・初任者育成の具体的な取組について

◆調査箇所：先哲史料館

<概要>

先哲史料館は、大分県の代表的な先哲の業績や人間像を明らかにする「大分県先哲叢書」の刊行と講座の実施、ふるさとの魅力を発信する企画展示、記録史料の調査・活用・保管を行っている。

宝永地震による津波の記録を整理紹介するパンフレット「おおいたの地震と津波」を発行し、小学校の防災教育に活用していること、また、開館25周年とラグビーワールドカップ開催を記念した、「大分のキリスト教史」を今秋企画展示することなどについて説明があった。



<主な質疑等>

- ・マレガプロジェクト成果発表に係る国際シンポジウムについて
- ・先哲史料館の利用者数の推移と外国人の利用状況について
- ・小学校への防災教育の実施状況について

◆調査箇所：警察学校

<概要>

警察学校における施設、組織、教育基本方針、初任科生の入校概要、初任科生等の入校期間、各科入校者数及び日課スケジュール等について調査を行った。また、初任科生の訓練、学校施設、寮の状況について視察した。

近年、ベテラン警察職員の大量退職に伴い、若手の即戦力化が強く求められているため、高い倫理観と規範意識の醸成・深化、問題兆候の早期把握・是正など、初任科生を中心に厳しい指導が行われている。



<主な質疑等>

- ・初任科生の男女比率と女性警察官の目標割合について
- ・入校中に退職する初任科生の人数及び理由について

◆調査箇所：鑑識科学センター

<概要>

鑑識課と科学捜査研究所は、平成30年11月に同センター内に庁舎移転している。鑑識課では、現場鑑識活動、指紋・足跡等の鑑定のほか、犯罪経歴証明書の発給事務を行っている。科学捜査研究所は、法医担当、科学担当、工学担当、文書・心理担当があり、それぞれDNA検査、毒劇物検査、火災・交通事故原因究明、ポリグラフ検査等の最先端技術を使った分析を行い、県警における科学捜査の中核となっている。

当日は、概要説明の後、施設調査を行った。



<主な質疑等>

- ・鑑識課、科学捜査研究所の職員採用と人事異動について
- ・庁舎を新設移転したことによる長所、短所について
- ・過去の未解決事件に係るDNA検査等の活用について

【令和元年7月1日（月）】

◆調査箇所：県立佐伯支援学校

<概要>

同校は、平成25年度に高等部を開設。将来を地域でたくましく生きる人間育成を学校教育目標と定め、小中高の一貫した教育と卒業生の一般企業等への就労率の向上や職場定着の向上を目指して、就労アドバイザーが積極的に活動している。

就労アドバイザーは、福祉部門と連携し、卒業後2年は継続して指導にあたっており、一般企業に就労した卒業生は、現在のところ中途離職していないことなどが報告された。



<主な質疑等>

- ・卒業生の就労確保の取組とこれまでに離職した人数について
- ・特別支援学校における栄養教諭、学校栄養職員の配置の必要性について
- ・スクールバスの運行状況と放課後デイサービスの利用状況について

◆調査箇所：佐伯教育事務所

<概要>

佐伯教育事務所（管轄：佐伯市）における事務所の組織や取組方針、佐伯市小中学校の学力及び体力の状況、いじめ及び不登校の状況などについて説明を受けた。また、学力向上支援員や習熟度別指導推進員による授業公開や、中学校学力向上推進重点校の取組、体力向上「一校一実践」の取組などについて報告を受けた。

同所では、学校訪問の連続性を強化し、課題解決型の学校訪問を行っていることや、教育委員会、校長会との連携強化を行っている。



<主な質疑等>

- ・民間出身校長の採用による学校経営の効果について
- ・算数、理科の課題解決に向けた取組及びその効果について
- ・学力向上推進重点校での自問清掃の取組と他校への波及について

◆調査箇所：臼杵市立西中学校

<概要>

同校は、中学校学力向上対策「3つの提言」推進重点校である。数年前までは生徒指導上の問題が多く学力も伸び悩んでいたが、福井県の先進事例に学び、教職員の意識改革（生徒指導よりも授業改善）に取り組んだ結果、荒れた学校を変えることに成功。現在は、県内外から視察を受け入れるようになっている。

当日は、習熟度別に行う英語の公開授業を視察するとともに、各教科等における指導力向上の仕組みの構築とその効果について説明を受けた。



<主な質疑等>

- ・指導力向上の仕組み構築の取組による教職員のモチベーションについて
- ・学力保証、成長保証、進路保証の具体的な取組について
- ・地元高校への進学率について

◆調査箇所：豊後大野警察署

<概要>

豊後大野警察署（管轄：豊後大野市）の組織、管内概要、運営重点の推進状況及び懸案事項（総合的な犯罪抑止対策、子供・女性・高齢者の安全確保と少年の非行防止・保護対策の推進、交通死亡事故の抑止、災害等の緊急事態対策の推進等）について調査を行った。

また、同署では30歳代までの若手警察官が約50%と多く、若手警察官の早期育成に力を入れていることなどが報告された。



<主な質疑等>

- ・平成30年度の高齢者による運転免許自主返納の件数と返納促進の取組
- ・山岳遭難者の件数と遭難者の傾向について
- ・刑法犯認知件数・検挙件数について

【令和元年7月2日（火）】

◆調査箇所：竹田市立南部小学校

<概要>

同校は生徒数173名、各学年1クラス、特別支援学級2クラスの小規模校である。竹田支援学校との交流や別府重度障害者センターとの「友情のほたるおくり」を50年以上継続するなど、児童のやさしさと思いやりを育む取組を行っている。

当日は、各学年と特別支援学級の授業の様子、木をふんだんに使ったゆとりある校舎の視察を行った後、学校経営グランドデザインやコミュニティスクールの取組について説明を受けた。



<主な質疑等>

- ・各教室へのエアコンの設置予定について
- ・パワーアップタイムの取組及び体育専科教員の設置による効果について
- ・スクールアシスタントの活用検討について

◆調査箇所：竹田教育事務所

<概要>

竹田教育事務所（管轄：竹田市、豊後大野市）における管内公立小中学校及び教職員の状況、竹田教育事務所における指導の重点（学校マネジメントの深化、授業改善の徹底、体力向上推進・健康課題への対応、いじめ・不登校対策等の推進）と、目標達成のための具体的な取組について調査を行った。

また、事務所独自の取組として、教育事務所個別相談会の開催による教科指導、学校マネジメント等の相談対応の状況について報告を受けた。



<主な質疑等>

- ・各学校における欠員の状況と病気休職者の傾向について
- ・管内における習熟度別授業の状況と、拡大していく際の課題について
- ・不登校児童・生徒に対するSC、SSW配置の効果について

◆調査箇所：県立久住高原農業高等学校

<概要>

同校は、今年4月に農業科単独校として開校。くじゅうアグリ創生塾と寮が新設され、特色ある農業プロジェクトを展開し、農業の発展に貢献する人材育成に取り組んでいる。

当日は、「うし部」などの部活動の状況や農業科によるAS IAGAP（アジアギャップ）の取組、外部講師を招聘した授業や産学官連携事業の取組などについて説明を受けた後、くじゅうアグリ創生塾及び寮の施設等の調査を行った。



<主な質疑等>

- ・今年度の入学者数及び全国公募の状況について
- ・AI、ICT及びドローンを活用した農業のスキルアップについて
- ・竹田市運営の寮の開設による久住校教職員の負担軽減について

◆調査箇所：竹田警察署

<概要>

竹田警察署（管轄：竹田市）の組織、管内概要、運営重点の推進状況及び懸案事項（総合的な犯罪抑止対策、子供・女性・高齢者の安全確保と少年の非行防止・保護対策の推進、交通死亡事故の抑止、災害等の緊急事態対策の推進等）について調査を行った。

また、同署独自の取組として、山岳遭難等の事故発生状況について説明があり、直ちに捜索を開始できるように、4名程度の待機員を確保して対応していることなどが報告された。



<主な質疑等>

- ・キラキラ作戦（見える、見せる、呼びかける）警ら活動の効果について
- ・管内の交通安全ボランティアの状況とボランティアに対する感謝について
- ・G20サミットにおける警察官の派遣と派遣後の情報共有について